

地域の達人 紹介します!

高浜市では、生涯学習基本構想のもと、学びを通じた人づくり・地域づくりを進めています。「地域の達人」と称して、地域で活動をしているいろいろなジャンルの達人の活躍する姿をより多くの方に知ってもらい、生涯学習のネットワークを広げていくため、毎月15日号で紹介しています。



☆地域の達人とは…高浜市に在住、在勤、在学している方で、いろいろな特技や専門分野を持った方。

「洋画の達人」 なべ た やす ひさ 鍋田 裕久さん(論地町在住)

◆絵画を描くようになったきっかけは何でしょうか?

フランスの画家ドラクロワの作品を中学時代に画集で見た時に、絵画に興味を持つようになりました。その後、大学時代に美術部に入ったのをきっかけに絵画を描くようになりました。専門の学校には行っていませんが、大学OBにプロの画家がいて、その方の手伝いから始まり、そのまま仕事になって40年ほど経っています。



▲鍋田裕久さん

◆鍋田さんにとっての絵画のおもしろさは何でしょうか?

私は油絵を描いているのですが、描いていて感じるのは、絵には完成がないことです。つまり終わりがいいから楽しいし、止められないのです。仕事で描く絵は締切があるので区切りがつかますが、好きで描く絵はきりがいいですね。題材としては、高浜の風景をよく描きます。例えば稗田川の四季、大山緑地、高取神明宮の祭礼のポスターも手掛けたことがあります。身近な地域の風景を色々な方に見ていただければという想いで描いています。

◆地域の子どもたちに絵を教えていると聞きましたが?

高浜子ども絵画クラブと南中の授業に携わっています。教えるというよりは、いっしょに絵を描くというスタンスで描く楽しみを知ってほしいという思いで接しています。子どもたちの作品をみていると、発想もおもしろいし、生きた線を描いていると感心することもあります。

◆今後の目標はなんですか?

まずは、文化協会、絵画クラブや南中での授業など、現在の活動を継続していきたいです。かつて絵画クラブで教えた子が最近、美術大に合格し、うれしく感じました。絵の好きな子どもたちが、これから地域で活動していけるように、次の世代につなげていけるような活動にしたいですね。

◆これから絵を描きたいと思っている方に一言お願いします。

絵の基礎を学ぶことはもちろん大事ですが、かならずしも専門の学校で学ばなくても自己流でも、長い眼で取り組みばいいと思います。何のプロでもそうだと思いますが、好きで続けていった結果、プロになっていますよね。また、私は、人の絵を見て自分の絵に活かせるものは積極的に取り入れるように努めています。そうやってみると絵画展は宝の山と言えますよね。色々な場面から吸収していこうという視点をもつと楽しいと思いますよ。



▲法響橋西側の看板に使われている作品



▲高浜子ども絵画クラブにて

話題に出た稗田川の絵は、高取公民館2階に展示されているほか、法響橋西側の看板に使われています。

生涯学習の取り組み一覧を紹介しています

市では、生涯学習の取り組みの一覧を、高浜市のウェブサイトで公開しています。市の事業や市民活動、ボランティア活動などの情報を共有することで、人と人、人と活動をつなぎ、市民活動の活性化を図りたいと考えています。皆さん、ぜひご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.city.takahama.lg.jp/grpbetu/bunka/>

